

Minami Kyushu University Syllabus

| シラバス年度 | 2024年度 | 開講キャンパス | 開講キャンパス | 都城キャンパス | 都城キャンパス | 開設学科 | 開設学科 | 子ども教育学科 | | | |
|---------------------|--|---------|---------|---------|---------|--------|------|----------------|-----------|---|--|
| 科目名称 | 聴覚障害教育総論 | | | | | | 授業形態 | 講義 | | | |
| 科目コード | 750146 | 単位数 | 1単位 | 配当学年 | 2 | 実務経験教員 | ○ | アクティブ ラーニング | ○ | ○ | |
| 担当教員名 | 本田 和也 | | | | | | | | ICT活 用 | | |
| 授業概要 | <p>本授業の目的は、特別支援教育の中でも、特に聴覚障害教育に携わる教員に求められる専門性を養うことである。特別支援学校（聴覚障害）での指導経験を活かし、本授業では、聴覚障害の概要についての理解を図った上で、様々なコミュニケーション手段を用いた日本語獲得についての理解を深める。しかし、「聴覚障害児にとって日本語獲得は永遠の課題である」といわれるように、日本語獲得の難しさや「9歳の壁」といわれる学業の難しさについての理解も図る。また、心理・社会性への影響などの聴覚障害児の特性を「障害認識」を通して考える。</p> | | | | | | | | | | |
| 関連する科目 | 履修前に「特別支援教育総論」を履修しておくことが望ましい。 | | | | | | | | | | |
| 授業の進め方 と方法 | <p>基本的に講義を中心とし、パワーポイントや動画など多様な手段を用いて展開する。 また、学びをさらに深めるために、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う経験を通して、深化を図る。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業計画 【第1回】 | 聴覚障害教育の歴史 これまでの聴覚障害教育の概要と歴史及び今後 | | | | | | | | | | |
| 授業計画 【第2回】 | 聞こえとその障害 耳の構造と音の伝わる仕組みを理解及び心理面・生理面からの各難聴の理解と教育的支援の違い | | | | | | | | | | |
| 授業計画 【第3回】 | 聴覚活用-補聴器と人工内耳- 医学の進歩に伴う補聴器等の活用の現状を理解及び聴覚障害教育の課題の理解 | | | | | | | | | | |
| 授業計画 【第4回】 | 聴覚障害教育の教育課程 各教科や自立活動等の指導内容の選定・組織及び個別の指導計画作成・実施・評価・改善 | | | | | | | | | | |
| 授業計画 【第5回】 | 聴覚障害における指導法① 聴覚口話法と手話法の良さや課題及び日本語獲得の指導 | | | | | | | | | | |
| 授業計画 【第6回】 | 聴覚障害における指導法② 学習環境の整備及びICT等の活用や適切な教材・教具 | | | | | | | | | | |
| 授業計画 【第7回】 | 言語発達と言語指導 言語発達過程の理解及び各障害（選択性緘黙や吃音等）の理解と発声・発語の指導・支援 | | | | | | | | | | |
| 授業計画 【第8回】 | 聴覚障害児の障害認識 「見えない障害」による誤解や孤独感等の心理的な理解及び適切な指導・支援 | | | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | <p>聴覚障害児の聴覚器官の病理面・生理面を理解し、その要因による心理面の特性等を理解した上で、聴覚障害の特性に応じた教育課程の編成、指導上の配慮面、授業における指導・支援を身に付けることを目的に、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>聴覚障害児の聴覚器官の病理面・生理面を理解し、その要因からの心理面の特性等を理解している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害の特性に応じた教育課程の編成や指導上の配慮面、自立活動を踏まえた個別の指導計画の作成・活用について理解している。 2. 日本語獲得のための聴覚口話法や手話等のコミュニケーション手段の活用、言語発達と言語指導の在り方を理解している。 3. 指導効果を高めるためのICTの効果的な活用、教材・教具の活用について理解している。 | | | | | | | | | | |
| 学位授与の方針 (DP)との関連 | 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1) | | | | | | | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 授業時間外学習【予習】 | 授業の中で、次回の授業内容・課題などを提示するので、各自で確認したり、調べたりしておく（1時間程度） |
| 授業時間外学習【復習】 | テキストや配布したプリント等を基に、習得した内容を整理したり、関連する資料・図書・文献等でさらに深めたりしておく（1時間程度） |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等は、次時の授業時間に解説を行う。 |
| 評価方法・基準 | 通常の授業に臨む態度と授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等の内容（20%）、及び最終試験（80%）で総合的に評価する。 |
| テキスト | 文部科学省編『特別支援学校居宅要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂（159円＋税） なお、必要に応じてプリントを配布する |
| 参考書 | 我妻敏博著（2011）『改訂版聴覚障害児の言語指導-実践のための基礎知識-』田研出版（2,600円＋税） 脇中紀余子著（2013）『「9歳の壁」を超えるために-生活言語から学習言語への移行を考える-』北大路書房（1,800円＋税） 川崎佳子著（2004）『きこえない子の心・ことば・家族-聴覚障害者カウンセリングの現場から-』明石書店（1,200円＋税） |
| 備考 | |